

Q: ワクチン接種後に新型コロナウイルスに感染することはありますか。

A: ワクチン接種後でも新型コロナウイルスに感染する場合があります。

また、ワクチンを接種して免疫がつくまでに 1～2 週間程度かかり、免疫がついても発症予防効果は 100%ではありません。そのためワクチン接種後も、密を避ける、こまめな換気、マスク着用、人との距離をとる、手洗いなどの感染予防対策をすることが重要です。

ファイザー社の新型コロナワクチンは、通常、3 週間の間隔で 2 回接種します。最も高い発症予防効果が得られるのは、2 回目を接種してから 7 日程度経って以降です。体の中である程度の抗体ができるまでに 1～2 週間程度かかるため、1 回目の接種後から 2 週間程度は、ワクチンを受けていない方と同じくらいの頻度で発症してしまうことが論文等でも報告されています。また、臨床試験においてワクチンを 2 回接種した場合の有効率は約 95%と報告されており、100%の発症予防効果が得られるわけではありません。

武田／モデルナ社の新型コロナワクチンは、通常、4 週間の間隔で 2 回接種します。臨床試験において、本ワクチンの接種で十分な免疫が確認されたのは、2 回目を接種してから 14 日以降となっています。また、ワクチンを 2 回接種した場合の有効率は約 94%と報告されており、100%の発症予防効果が得られるわけではありません。

アストラゼネカ社の新型コロナワクチンは、通常、4～12 週間の間隔で 2 回接種します。臨床試験において、本ワクチンの接種で十分な免疫が確認されたのは、2 回目の接種を受けてから 15 日以降です。また、ワクチンを 2 回接種した場合の有効率は、複数の臨床試験を併合して解析した結果から約 70%等の結果が確認されており、100%の発症予防効果が得られるわけではありません。